此物元來毒草にして人に益なし、性辛烈にして無病に津を生ず、津は一身の液なり、潤養せずして、反て枯竭する時は損あるべし、畢竟は少々鬱を開く能あるのみ、本草備要に、飽則易饑、饑則飽と載せたれども、烟草の饑渴を救ひし事を見ず、

〔烟草百首頭書〕功能

佗波古は、○中略霜露風雨の寒を禦ぎ、山蠱鬼邪の氣を避、小兒食て疳積を殺し、婦人食へばよく癥瘕を消す、氣血を廻し、二便を通じ、惡瘡を治す、○中略

大飲飽食して腹脹滿時、二葉を採、熱灰を其中に包、暫ありて腹の上を按ときは、其脹卽解す、○中略

烟草の水を絞て膏藥に入る時は、能痛を止、膿を吸、腐肉を蝕し肌を生ず、金瘡によし、皆人卽時の血留にするを以、功能玄るべし、

葉色青綠なるを錫蒸にして、其露を採、硝子器に入置、金瘡惡瘡腫物一切にぬる時功有、又眼かすむ時は、眶にぬりて寢ときは、翌旦あきらかに見ゆ、きせるの脂にても妙なり、

水腫には、烟草の末を香爐に焚、烟を呑、其水氣能消す、又吐劑にも用、粉を燻らし、これを鼻ば嚏ことを止、

灸治を嫌ふ小兒には、きせるの脂をとり、灸點におす時は蟲の病を去、大人にも功能あり、

蛇蚖諸蠱此烟を嫌ふ、蛇の皮を剝、一葉を刺時は速に死、又これを薰しても宜し、きせるの脂口にいるゝ時は死、蚤虱蚊遣に用ゆるは、皆人の知る所なり、諸鳥犬猫、皆烟氣を惡、獨猿のみこれを好、又金魚などの病つきたるに、烟糞を集め、鱗をこくときは忽活、奇妙なり、

烟草の實を食へば、胎を墮といふ、味噌汁鹽湯冷水其毒を解す、

烟毒を解には、砂糖檳榔子よし、又多く服して醉て頭痛する時は味噌汁よし、なき時は生味增嘗、

烟毒方